

早期修了プログラム達成度自己点検シート【履修生用】

提出日：令和 年 月 日

学生氏名：清 少納言

所属：知能機能システム学位プログラム

指導教員名：中宮 定子

専門分野：情報通信工学

A 博士の学位にふさわしいレベル

B 修士の学位レベル

C 学士の学位レベル

	コンピテンス		評価の観点	自己評価レベル				自己評価の根拠	各学位プログラムでの 特記事項等
	名称	説明		入学時 審査時	中間 審査時	予備 審査時	最終 審査時		
汎用 コンピ テン ス	1	知の創成 力	未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	A				通信ネットワークの高速化に不可欠な信号処理技術に関する研究成果として、主著2編の査読付き学術雑誌論文、および、主著1編の査読付き国際会議論文の業績を有している。この研究成果は、〇〇であり、新たな知の創成と言える。また、以降のコンピテンス全てにおいて、博士の学位にふさわしいレベルであると判断できれば、今後、人類社会の未来に資する知を創成することが十分に期待できると主張する。
	2	マネジ メント能力	俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	A				申請者は、企業〇〇において、〇〇に関する技術を、関係者と協力しながら開発してきた。このように、専門分野である信号処理とは異なる分野においても、課題を発見し、問題設定から解決までのプロセスを理解し、具体的解決に導くことができる基礎的な能力を有していると主張する。
	3	コミュニ ケーション 能力	学術的成果の本質を積極的かつわかりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えとともに、質問に的確に答えることができるか	B				国際学会のうち海外で英語による発表を1回、国内で英語による発表を1回行っていることから、専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えとともに、質問に的確に答えることができる能力を有していると主張する。「知能機能システム特別研究A」において、分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができる能力を獲得することが期待される。
	4	リーダー シップ力	リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	A				申請者は、企業〇〇において、〇〇に関する技術を、関係者と協力しながら開発してきた。上記の業績から、申請者が問題設定から解決までのプロセスを理解し、具体的解決に導くことができる基礎的な能力を有していると主張する。
	5	国際性	国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	A				国際学会のうち海外で英語による発表を1回、国内で英語による発表を1回行っていることから、国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲を備えていると言える。
学位 P コンピ テン ス	1	研究力	知能機能システム分野において先端的な研究課題を設定し、自立して研究を遂行し独創的な成果を上げて国際的に発表する能力とそのための高度な技術	① 知能機能システム分野の先端的な研究課題を適切に設定でき、その研究を行うための高度な技術はあるか ② 知能機能システム分野の先端的な研究を遂行して独創的な成果を上げることができるか ③ 国際会議等において英語で研究成果を発表し議論することができるか	A				〇〇大学在学時に、情報理論や、通信工学をはじめとする、知能機能システム分野についての科目を修得している。さらに、企業〇〇における、〇〇技術開発に携わることで、通信に関して、博士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を獲得した。さらに、申請者は、国際学会のうち海外で英語による発表を1回、国内で英語による発表を1回行っている。
	2	専門知識	工学分野の研究者または高度専門職業人にふさわしい知識と学力、および知能機能システム分野における先端的かつ高度な専門知識と運用能力	① システム情報工学分野の専門知識を幅広くつか ② 知能機能システム分野における先端的かつ高度な専門知識を修得し、それを研究や問題解決のために運用できるか	A				これまで、企業人として、様々な研究者・技術者と議論し、関連分野であるデジタル信号処理、情報通信工学、電気電子工学、人工知能等、システム情報工学分野の専門知識を幅広く身につけてきた。そして、別添業績リストに示すように、〇〇に関して主著2編の査読付き学術雑誌論文、および、主著1編の査読付き国際会議論文が掲載されているなど、申請者の研究成果は学界にも評価されている。従って、工学分野の研究者または高度専門職業人にふさわしい知識と学力、および知能機能システム分野における先端的かつ高度な専門知識と運用能力を有していると主張する。
	3	倫理観	工学分野の研究者または高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識、および知能機能システム分野に関する深い倫理的知識	① 研究者倫理および技術者倫理について十分に理解し遵守しているか ② ヒトを対象とする研究などに関する倫理的知識をもち、研究に必要な手続きを十分に理解し実施することができるか	A				申請者は、これまで、多様な価値観や倫理観が行き交う現場で、企業人として、課題解決力を発揮しており、工学分野の研究者または高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識、および知能機能システム分野に関する深い倫理的知識を有していると言える。さらに、本学のオリエンテーションにおいて、研究者倫理、および、情報倫理を受講して、倫理的知識をさらに深めることが期待できる。

注1:自己評価レベルについては、「A(博士の学位にふさわしいレベル)」、「B(修士の学位レベル)」、「C(学士の学位レベル)」を基準として自己評価を行う。

注2:自己評価で「A」評価とされた項目について、教員側の評価において同じく「A」評価とされた場合に達成済みとする。

注3:「A」評価を得た項目については、更なる特筆すべき事項等が無い場合はシートの内容を更新する必要は無い。